2023 年度 青森大学高校生科学研究コンテスト
SDGs 賞の授与にあたって

今年で第 11 回目を迎える青森大学高校生科学研究コンテスト、SDGs 研究センター賞を設けて 4 年目に当たります。この賞は SDGs（国連持続可能な開発目標）の達成に向けた人づくりの重要性と社会的な関心を踏まえて、青森大学附属総合研究所 SDGs 研究センターが設けたものです。SDGs 賞の審査では、二つの会場において、エントリー作品がどのように地域の自然環境を捉えて、青森などの地方の人口減少抑制や地域活性化などの課題に関連づけているかという、社会との関係性ならびに創造性に着眼して、これまで各作品を評価してきました。

今年度は、次の 2 チームに SDGs 研究センター賞を贈ることに決定いたしました。

青森高等学校自然科学部地学班　　堤川の水質改善に向けて
　髙森 盾之介さん、福士 舞さん、山谷 桜子さん、工藤 祐人さん、木村 紗久良さん、
　工藤 彩斗さん、山口 沙也さん

五所川原高等学校理数科 2 年化学班
　New Power プラスチック ～ 強く手頃でエコなプラスチック～
　堀谷 暖さん、高橋 晃大さん、新岡 泰雅さん、葛西 風夏さん、工藤 芽依さん

皆さん、誠におめでとうございます。

前者は今年 2 年目のプロジェクト。昨年度の調査結果を踏まえて、水質の傾向や汚濁の原因などを推定したことに加えて、今年度「水辺の健やかさ指標」という新たな基準を調査に用い、人のかかわりの様相に分析・論考を広げたことを高く評価しました。これは、この課題（堤川の水質改善）にかかる今後の利害関係者の整理のみならず、改善・解決策を打ち出す上で非常に貴重な足がかりになるでしょう。

後者選定の決め手は、環境汚染を引き起こす廃棄プラスチックによる問題を解決するため、青森県産品「りんご」の食用にできず廃棄される部分に含まれるペクチンを用いて生分解性プラスチックの強度を高めることに挑戦した点で、地域の特性と SDGs の取組を印象づけました。作製プラスチックそのものを提示した表現力は、研究成果の実用性に向けて大きな説得力をもちました。

受賞された12名の皆様には賞品として、青森市周辺で行われている様々な自然体験のツアーへの無料参加の機会を贈呈いたします。このツアーは、皆さんの今後の勉学だけでなく、住んでいる地域、自然の捉え方にも大きな刺激になると信じて、今回の賞品とさせていただきました。具体的な日時、内容については後日調整させていただきます。

私たちSDGs研究センターでは、教育や研究活動はそれらを取り巻く自然と社会との相互依存の関係にあるという、文脈依存性を十分考慮しながら、Critical thinking（批判的思考）と呼ばれる「問題の本質を正しくとらえる」見方・考え方が、多くの課題解決に寄与すると考えています。探究を通じ、科学的根拠に基づいた多様な角度から検討する思考力は、地域を見る視点の深化や、より良い未来を創っていくことにつながります。人と自然が共生できる社会に向け、継続的な取組を皆さまと共に取り組んでまいります。

最後になりましたが、今回応募された生徒の皆さま、指導に当たった教職員の皆さま、そしてそれらの方々を支えた地域社会の皆さまやご家族の皆さまあらためて感謝を申し上げるとともに、益々のご活躍ご清祥をささやかながら祈っております。

青森大学付属総合研究所SDGs研究センター
センター長　藤 公晴